

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部グループホーム		
所在地	長崎県佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成24年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では希望に沿った外出支援や、周辺は市役所や学校があり朝・夕の通勤・通学、散歩・買い物等で地域の方との交流を持ち、毎日楽しく過ごし笑顔が見られる様支援しています。又建物はバス停のすぐ傍で、ご家族の面会も多い為ご家族とのコミュニケーションも大切に、日々の様子も伝えています。病院併設の施設であり、通院介助や緊急時の対応も入居者・ご家族に安心頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ハナレイ倶楽部のパンフレットに、「ハナレイ」とはハワイ・カウアイ島にある村の名前。…この美しい村は人々を優しく包み込み、又訪れる旅人の心と体を癒してくれます。ハナレイ倶楽部も、そんなハナレイ村のようにやさしくおもいをこめて、この施設を利用される方々の暮らしを支援します」と書かれているように、職員の笑顔は優しく温かい。まさにハナレイ村と同じく、人々を優しく包み込み、ホームを利用する方々の心と体を癒しているホームであり、職員の離職も少ない。職員の花柄の制服も素敵で、ご利用者と一緒に柄を選んで下さっている。ホームのダイニングはモダンな造りで、大きなテーブルが置かれ、ご利用者の活けた花々をきっかけに楽しい会話が膨らんでいた。大きなガラスの窓から、通学の方と手を振り合う光景も日常で、天気の良い日は川の流れを見ながらホーム周辺の散歩も楽しんでいる。病院併設であり、24時間の医療連携が図られており、看取りケアも行われている。終末期には他のご利用者もお部屋を訪れ、亡くなられた後も優しい声かけをして下さった。“穏やかで豊かなその人らしい生活”が送れるように、職員全員が力を合わせ“熟練した介護”の提供を続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員で読み上げる事で、再確認と実践するようこころ掛けている。カンファレンス時にも振りかえっている	理念にある“熟練した介護”を提供できるよう、研修会に参加し、その方にあった介護ができるよう全員で話しあっている。“穏やかで豊かなその人らしい生活”のために、その方にあった生活のペースを尊重している。定期的な外出、散歩などで、“地域に密着した楽しい生活ができるように”努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝入居者の体調に応じ施設周辺の散歩時の挨拶を忘れない様になっている。又地域内の飲食店・魚屋・歯科医・コンビニの利用・学校行事の見学や施設内見学で交流を図っている	法人全体で町内会に入っており、夏祭りなどのご案内などを回覧板で回して頂いている。佐世保おくんちの当町内が踊り町だったため、職員が町内の踊りに参加し、地域の方と一緒に楽しむことができた。中学校の職場体験も受け入れている。運営推進会議では町内役員の方にAEDの設置のご案内を行った。	保育園児と以前交流をしていたが、3年間くらい交流ができていない。ご利用者の方も小さい子ども達が好きなので、今後の交流を再開していければと考えられている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前介護教室で地域や家族の方達に勉強会を行った。今年は中学校・高校から職場体験に来られた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議題を決め入居者へのサービス状況の報告や、外部評価の結果と目標を報告した。参加者の意見や話し合いを職員にも伝え、サービスの向上に努めている。	23年度は6回連続で行う事ができた。家族や民生委員の方、地域包括の方、知見者の方に参加頂いている。会議の参加者からの意見で、おくんちで町内の踊りに職員が参加することができた。会議では、「皆さん揃っての食事風景があった良いですね」等の感想を頂いている。	ご利用者の参加を検討すると共に、利用されている方の意見をいかに反映できるかを検討予定である。食事会を一緒に行ったり、会議の前後にホームでお茶会を行う等、ご利用者との団欒の仕方も検討していく予定にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査時の機会を利用して相談や報告を行い、助言を頂いている。	ホーム長が更新手続きの時や会議の案内を持って市に出向き、お届けしている。制度に関する質問等は電話でしており、親身に対応頂いている。運営推進会議で家族から後見人制度について尋ねられ、包括の方が窓口や利用の仕方などを説明して下さった。市が主催する研修にも参加しており、アンケートにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に文書による説明で家族に理解と同意を得ている。玄関・居室は施錠しないが、骨折後の徘徊がある方は夜間のみ危険を回避する為センサーマットを使用している。スタッフも研修会の参加で理解できており、言葉かけや常に目配りに心がけている。	ご本人の気持ちに寄り添い、帰宅願望が見られる時にはホーム内を十分に歩いて頂いたり、散歩に出かけるなど、身体拘束のないケアに取り組まれている。職員が余裕を持ってご利用者と会話をする時間を多くしている。昼夜逆転を予防し、不穏時などはご本人との寄り添いに努めている。	ユニット毎の体制の違いもあるが、職員が余裕を持ってご利用者と過ごせる時間を増やしていきたいと考えられている。今後も引き続き、記録時間や入浴時間等も含め、3人体制の時や受診の時等の業務の見直しを検討していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアや言葉使いに注意し、スタッフも研修の参加と勉強会を実地し絶対してはいけないと職員全員が確認している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は行ったが、現在は該当者がいない。再度勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前は見学とパンフレットによる説明を行い、契約時は十分に時間をかけ疑問点や不安を聞き、理解を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター前に意見箱を設置したり、ケア時や面会時には必ず会話を心がけ、意見・要望時はスタッフで話し合いを持ち改善に努めている	家族の面会時(電話)に体調や近況報告を行い、「何かわからない事はないですか?」と聞くようになっている。家族の希望なども伺うようになり、「〇〇を食べさせて下さい」「痛い所に湿布を貼って下さい」などの要望を頂き、日々反映できるように努めている。夏祭りの後等は家族会を行い、意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談・月一回のカンファレンス・全体のハナレイ会時に意見や希望を聞き、大切な事は代表者と話し合い反映できる様に努めている	毎月のカンファレンスの時に職員との意見交換が行われており、行事や人事、仕事の悩み等に関する意見が聞かれている。23年は初めての個人面談も行われ、職員の不安等も確認する事ができ、職員全員が意見を出しやすい職場作りをしている。新人の職員の成長も確認しながら、勉強ができる環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の昇給・年二回の賞与でやりがいがある。スタッフもほとんどが常勤で勤務調整もできやすい。又納涼会やボーリング大会などでストレスの軽減を図ったりしている。代表者は相談に耳を傾けて頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の回覧で希望を取ったり、各個人に合った研修の参加を勧めている。その後は施設内で発表、意見交換を行っている。新任職員は計画に沿って行っている。施設外は勤務扱いとしたり行きやすい環境にも努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やグループホーム協議会主催のボーリング大会等で、サービスの質について考えたり交流を持ち向上アップを計っている。又運営推進会議の場でも悩みや相談で交流を持っている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・予約時と入居前に話しを聞き、不安を取り除ける様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や入居後もその都度家族の要望・不安を話しやすい雰囲気でも聞き安心・満足していただける様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に自宅や施設を訪問し、その方に必要な事や嗜好等を考慮するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のできる事・できない事や考え方の把握と対応を心がけて、支えあう関係に努めている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近の暮らしぶりの報告やレクレーション・イベントなどの案内や面会時は家族とのふれあいの時間を大切にもらっている。又変化時もその都度報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族の面会を大切にもらい、定期的に行きつけの美容院を利用されたり、外出も季節毎に入居者が昔を思い出せる所を聞くように努めている	馴染みの方や場所などを回想法で聞くようにしている。信仰が同じ方や知人の方、以前担当下だったヘルパーの方等も来て下さっており、居室でゆっくりと話せるようにしている。家族の協力のもと、お墓参りや馴染みの美容院にも行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	平等の声かけをして、リビングでは仲間意識が持てる様スタッフが間に入り、長所をほめ短所に関心が行かない様にしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院入院時は面会に行き、必要に応じて今後の相談・支援に努めている。施設外で会った時は本人の状況を聞き支援できる様に努めている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り思いやペースに沿える様御本人・御家族に話を聞いたり、レクレーションやお茶等の共有時間やそのつどスタッフ間で話し合い、不安なく生活できるようにしている	レク時間やゆとりある時間にはソファで一緒に座り、ご利用者にお話かけを多くし、スキンシップや寄り添いをしている。一緒に新聞を読みながら情報交換を続けており、若い頃の話に発展する事も多い。午後は回想法も取り入れ、外出や食べ物等、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人・御家族や担当のケアマネージャー等から情報を得たり、入居後はコミュニケーションを図りながらできる限り把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や会話時に一人一人の心身状態の把握と、お手伝いやレクレーションの参加・好きな時間の過ごし方を無理強いない様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや月一回のカンファレンス時と御本人・御家族と、今御本人にとって何が必要なケアを話し合い把握して作成している	ご本人や家族の意見を基に、介護計画の原案は計画作成担当者が中心になり作成している。評価は全職員で行っており、状況の変化時はサービスを変更している。“下膳”“台拭き”“できることはしてもらう”“買い物”“散歩”などの役割や楽しみも盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画実地表を毎日チェックし、カルテに記録したり特記事項に記入したり、状況の変化時はサービスを変更したりしてスタッフ間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に対応できる様、御本人・御家族の希望やスタッフ間での話し合いでサービスの統一に努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	リビングでの食事時通勤・通学や犬の散歩で顔なじみができたり、朝の散歩時は川の流れを見て会話や挨拶を交わしている。又近くのコンビニや商店街の利用も同行し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人・御家族の希望を尊重し決めてもらっている。受診後も今後を含めた情報と連絡をとっている。又病院と併設している為緊急時等は、往診してもらったり紹介状などで安心して頂いている	併設病院がかかりつけ医であり、看護師と職員が受診支援を行っている。特別な薬の変更の場合や急変時はその都度家族に報告しており、変化が無い場合は面会時に報告している。ホーム長が看護師でもあり、健康管理を行っており、かかりつけ医への報告も適宜行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルや異状時・入浴・パット交換時に気づきなどを連絡をして、適切な医療・看護を受けられる様支援している。分からない時もそのつど相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会を心がけ、併設の病院に入院時は入居者やスタッフが交代で毎日声かけに行っている。再入居に向け後本人・御家族・病院と相談・情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に今後の方向性を聞き、急変や重度化した時は早めにその都度御家族・主治医と話し合い・説明を行っている。重度化から看取り迄のマニュアル・同意書・重度化の説明と手引きを作成し、スタッフの目の届く所に常時置いて対応できるようにしている。	その方に合った最善の介護ができる事と合わせて、職員の不安(特に夜勤時)を軽減できるように、看護師が勉強の機会を作ったり、24時間体制の連絡が取れるようにしている。23年度は1つのユニットで看取りケアが行われ、他のご利用者もお部屋で一緒に過ごされ、亡くなられた後も優しい声かけをして下さった。毎日家族の面会もあり、穏やかに過ごせるよう配慮し、精神誠意の対応をさせて頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・夜間の連絡体制、事故発生時のマニュアルを作成しステーションに掲げている。又勉強会も行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを参考にして定期的に避難・火災訓練に参加し、実践できるようにしている。運営推進会議でも地域の方と確認を行った。非常時の持ち出し品とファイルも作成している	23年5月は、ご利用者と消火器の会社の方も一緒に昼間想定で訓練を行い、所要時間も測定した。23年11月には消防署の方も一緒に夜間想定での訓練が行われ、病院や地域との応援体制もできている。災害時に備えて、救急用品や懐中電灯などを準備している。食料や水も準備中である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊敬の気持ちで接し、訪室時はノックと声かけ・退室時も声かけを行い、一人ひとりの言葉かけや間違っているやみに訂正しない様常に注意している	言葉遣いや声の大きさには気をつけており、ご利用者個々のペースに合わせた対応を心がけている。ご利用者にお尻を向けない事や、職員同士の私語は慎み、ご本人と一緒に過ごせるように伝えている。個人情報入社時に職員と誓約書を交わし、新聞・ホームページの掲載は入居時に同意書を頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後や外出時の洋服を選んでもらったり、会話時は傾聴に心がけ、選ぶ場面では自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他科受診や外出時は毎朝確認の声かけを行い、体調や状況に応じて本人の希望を優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院の利用と月一回のビューティヘルパーの支援でカット・パーマ・毛染めなど行っている。又外出時は洋服や小物選びで喜んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き献立を立てたり音楽を聴きながら、スタッフも一緒に食事を取り、その方に応じたお手伝いをして頂いている。又月一回のレクレーションを通し外食にも出掛けている	テーブルには季節の花を飾っており、ご利用者の希望も伺いながら、ツワや筍などの旬の物を取り入れたお料理が作られている。調理の下ごしらえ(もやしの根切り等)、配膳や下膳など、できる範囲の中でご利用者にも手伝って頂いている。夏場にはそうめん流しを行い、ちゃんぽんやパフェも食べに行かれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量のチェックや献立の工夫を行い、水分は毎食後・10時・15時や入浴後・散歩後など確保に努めたり、いつでも飲める様毎日カウンターに準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りや確認が必要な方は、毎食後リビングで歯磨きとその方に合った介助を最後迄行っている。歯科受診後も情報収集や指導を受けている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼・夜やその方に合ったパットやオムツを使用し、できるだけトイレでの声かけ・誘導で排泄をして頂いている	排泄表を活用し、トイレ誘導する事で失禁やおむつの使用を減らすように努めており、リハパンツから布パンツになられた方もおられる。レベル低下でオムツ使用の方もおられるが、早めに交換を行っている。失禁時はさりげない声かけをしたり、トイレや居室のドアを閉め、羞恥心への配慮も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と朝の散歩や体操の働きかけと、繊維質の多い食材をメニューに取り入れ取り入れて予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、体調や本人の希望で順番や他の日に変更したり、湯の温度を調整している。入浴はスタッフとのコミュニケーションの場で楽しみにされている	毎日入浴される方もおられる。浴室の広さが限られていることもあり、浴室のドアをカーテンにし、シャワーチェアを購入したことで入りやすくなった。入浴を拒まれる場合は時間をずらしたり、次回にまわす等、無理強いないようになっている。入浴剤なども使用し、職員との会話も楽しんでいる。以前は菖蒲湯等も楽しまれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝の時間を作ったり、自由に自室で過ごしてもらっている。不眠の時は会話や飲水を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方と疾患別のファイルを作成し、変化時は効果・副作用を申し送り時全員に伝えている。その方に応じた渡し方や介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ベランダで一緒に花を育てたり、干し柿を作ってもらった。又それぞれの誕生会や行事時は代表の挨拶をお願いした。その方に合った時間を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や買い物では地域の方と挨拶を交わしたり交流を図り、月一回の外出は希望に沿える様家族へ相談・協力を頂いている	天気の良い日は、車いすの方も川の流れを見ながらホーム周辺の散歩をしており、地域の方との会話や挨拶を交わしている。近くのコンビニや商店街に買い物に行かされている。デイの車をお屋に使えることもあり、お花見や紅葉ドライブ、藤山神社、九十九島動物園にも行かれた。回転寿司やジョイフルで外食を楽しみ、鹿子前パールシーではパフェを楽しまれた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は財布を持たれスタッフと一緒にコンビニなど出かけている。管理ができない方は御家族同意で預かり支払いをして、面会時などに御家族に確認をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は自由に使用してもらったり、使用・充電の支援を行っている。希望があれば手紙を出したり、住所が施設の方は郵便物の取り次ぎをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングは窓が広く外の景色も見え廊下も広く、光はロールカーテンで調節している。調理風景や音・匂いを又ベランダの花や掲示物で生活や季節を感じてもらっている。	ダイニングはモダンな雰囲気であり、大きなガラスには季節に応じた張り紙を貼っている。ダイニングには大きなテーブルが置かれ、ソファもある。対面式キッチンには椅子があり、調理をする職員と向き合って座り、会話をされる方もおられる。冬は加湿器を使い、朝の掃除や排泄処理後は換気に注意している。ベランダには鉢植えがあり、ご利用者も一緒に水やりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室でテレビを見たり読書をしたり、リビングでは仲間同士でお話をされたりして過ごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は自宅より使い慣れた家具や思い出の品を持参され、その人らしい居室で過ごされている	居室で過ごされている時は、ロールカーテンで光の調節をし、室温に気をつけている。たんすや椅子、電気スタンド、テレビ等を持ち込まれている方もおられ、ベッド上で過ごされている方にはCDを流すようにしている。お位牌や遺影を大切に置かれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は広く段差がなく、トイレ・浴室等場所を大きく表示している。夜間はその方に合った灯りを調節している		

事業所名: ハナレイ倶楽部 グループホーム

作成日: 平成 24 年 3 月 27 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の定期的開催の継続と内容の検討	運営推進会議で、入居者と参加者の交流の機会を設ける	入居者の意見と参加を検討	12 ヶ月
2	6	職員が余裕をもって、入居者と過ごす時間を今以上に増やしていきたい	職員の精神的負担の軽減と定着	管理者・職員の異動と業務内容の見直し	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月